

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 17-026

PDCA	事務事業名	地域包括支援センター運営事業	部課等名	福祉部 高齢介護課 高齢者福祉担当	担当	榎原有	
					内線等	376	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第2章 子育てと暮らしを地域で支え合うまち 節： 第2節 地域福祉の推進 基本施策： 2. 高齢者福祉 単位施策： (3) 高齢者の日常生活の支援 個別施策： ①福祉サービスの充実					
	根拠法令等						
	対象・目的	高齢者が、可能な限り健康で自立した生活を送るとともに、住み慣れた地域で生きがいをもって暮らすことができるよう支援を行う。					
	目的を達成するための手段・活動内容	平成18年4月から介護保険法改正により、高齢者の生活を支える総合機関として地域包括支援センターの設置が義務付けられた。地域包括支援センターは、専門の職員（保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員）を配置し、①介護等の相談に応じる「総合相談支援事業」②虐待の早期発見などの「権利擁護事業」③関係者のネットワークづくりを行う「包括的・継続的ケアマネジメント支援事業」④介護予防サービスによる自立生活を支援する「介護予防ケアマネジメント事業」などの業務を行う。 なお、設置運営を半田市社会福祉協議会へ委託し実施している。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①介護予防・新介護予防プラン作成数	15,121	15,681	15,458	件	
		②総合相談・権利擁護に関する相談延べ件数	6,890	9,018	9,642	件	
		③ケアマネ等からの相談件数	218	484	608	件	
		事業費	89,107	89,141	89,163	千円	
		人件費	1,499	2,174	2,160	千円	
		総事業費	90,606	91,315	91,323	千円	
		活動単位当たりのコスト	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
	①利用者一人当たりの経費	4,076	3,626	3,553	円		
	成 果	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①相談の内容により地域ケア会議に繋いだケース	実績値	16	17	17	件
			目標値	20	20	20	
		②高齢者虐待相談対応件数(実数)	実績値	214	223	120	件
			目標値	230	230	200	
③地域における介護支援専門員のネットワーク構築・活用		実績値	15	10	5	回	
		目標値	30	30	15		
C 課題の整理		観点別評価	必要性	有効性		効率性	
	①市の関与の妥当性		妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
	②市民ニーズ		高い	⑤成果向上の余地	ある		
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ない
	事業の評価・課題	B					
		現場で支援するケアマネジャーからの相談件数が増加しており、コロナ禍での高齢者の不安に対する柔軟な対応が求められた結果となった。また、虐待の相談件数が大幅に減少し良い傾向であるが、総合相談の件数としては増えており、コロナ禍における市民の不安が影響している。自粛生活を受けて、虐待の潜在化が進んでいないか注視していく。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進				
令和3年度の目標		第2次地域福祉計画において、行政及び関係機関の分野横断的な連携による支援の充実を進めていくこととしている。一人の高齢者の相談を皮切りにその家族全員に支援が必要な場合があるなど、複数の課題を抱えた困難なケースは年々増加しており、各支援機関と横断的に連携することで、相互作用が生じ、支援の効果が高まるよう取り組んでいく。					
		成果指標			目標値	単位	
		①相談の内容により地域ケア会議に繋いだケース			20	件	
		②高齢者虐待相談対応件数(実数)			150	件	
	③地域における介護支援専門員のネットワーク構築・活用			15	回		